

地域が取り組む “困ったを安心に”

～みんなでつくる
地域包括ケアシステム～

地域包括支援課
地域包括支援係
☎ 0824-73-1279



医療・介護、生活支援・介護予防をそれぞれの分野で進化させながら、連携・協働する仕組みを地域包括ケアシステムといい、そのうちの生活支援・介護予防の分野は特に住民活動と深い関わりがあります。

地域だからこそできる「①見守り合いの仕組みづくり」「②集まり場づくり」「③支え合い活動」それぞれは、地域での安心づくりや生きがい（役割）づくりとも密接な関係にあります。

「地域でどんな困りごとがあるだろうか」を自分たちのこととして話し合い、「できることはやっていこう」という地域ぐるみの取り組みを紹介します。（今後も各自自治振興区の取り組みを紹介していきます。）

①見守り合いの仕組みづくり
顔が見える地域での、
気に掛け合う仕組みづくり

総領自治振興区

総領自治振興区内の7つの自治会では、お互いの顔が見える関係を大切にしながら、見守り合いの仕組みづくりと情報共有に取り組んでいます。

自治会の見守り員、自治会役員、地区担当民生委員（ひとり暮らし高齢者等巡回相談員兼務）、社協生活支援コーディネーターなどが定期的に集まって情報を共有し、当事者（ひとり暮らし高齢者など）の気持ちを尊重しながら、地域ケア会議につなげたり、地域内の気に掛け合う仕組みづくりに取り組んでいます。

②集まり場づくりを通して絆づくりを
身近な小地域で
集まり場を増やそう

帝釈自治振興区

「普段から人のつながりは濃いけど、昔に比べると集まらんようになったなあ」意識して集まって、情報交換やたびたび顔を合わせることで、気に掛け合うことをもつともつと当たり前にしていこうやあ」。

東広島市安芸津町木谷地区へサロンの視察研修に向き、集まることの大切さを再認識した自治振興区の皆さんは、集まり場づくりをさらに進めるとい目標に向けて取り組んでいます。

③小さなことから一ずつ取り組み
いろいろな困りごとが見えてくる。
ほっとけんじゃろう

比和まるごと家族会議・比和自治振興区

「生活バスで町中に来て、診療所から金融機関、スーパー、バス待合所まで歩くのが大変なんよ」「町中にベンチはあがるが座りにくいんよ」。会議ではいろいろな声が聞こえてきます。このような声を受けて、自由に使える歩行器の設置や、ベンチの設置方法の見直しを実現しました。

できることもあればできないこともあります。ありますが、普段の暮らしを応援できればということ。「声を聴く」「見る」「話し合う」「行動に移す」をみんなで少しずつ取り組み中です。



下領家自治会の
会合

「〇〇さん“近頃物忘れが進みよる気がする、認知症かもしれん” ゆうて心細がとってんよ」
「見守りの時に声を掛けてみようか」
「そういやあ認知症のことをよう知らんのお」
「今度、自治会で認知症の研修会をしてみんや」



ある日の
「宇山地区サロン」

「きょうは放談会、第1回目の集まりじゃ」
「みんなでじゃんけんするだけでも、楽しいね。久しぶりに大きな声で笑ったね」
「月1回、集まって顔を見られるんはええことよね」
「来月が待ち遠しいのう」



さあ、
買い物、買い物！

「歩行器があれば便利だね」
「ベンチに気兼ねなく座ってもらおう」
小さな取り組みだけど、少しは気軽に掛かけられるようになったかな？